

# ムーンショット目標10

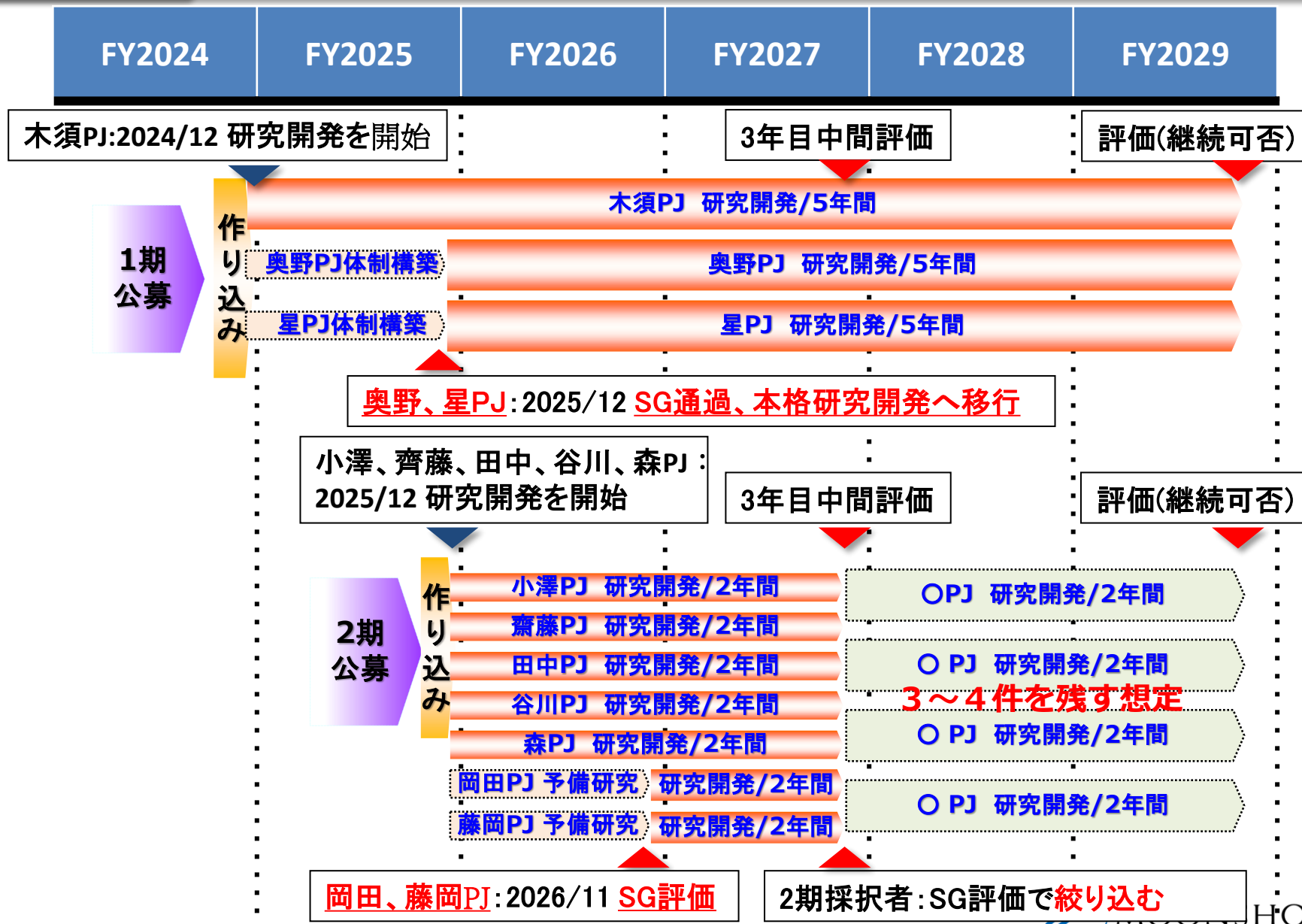
新規プロジェクト・キックオフシンポジウム  
2026年 3月2日

～目標10の今後の活動～

プログラムディレクター  
吉田 善章

(東京大学大学院 数理科学研究科 特任教授)

# MS10 タイムライン



25年度採択の7プロジェクト(PJ)は、オープンな国際ワークショップを開催しプロジェクトの進捗・成果に対して幅広い議論・評価を行い、現代科学技術の到達点を整理し発信する

### ステージゲート(1年目)

本格的な研究を開始前に、システムの成立性を、解析・実験データなどをもとに議論・判定する

- ・ **藤岡PJ**：「ハイパワー・パルスレーザーに向けた光蓄積技術の挑戦的課題

#### MS10・藤岡プロジェクトの予備的技術評価

日時：4月15日（水）10:00-15:40

場所：JST 東京本部別館 1F大ホール

参加形態：現地参加のみ（無料・事前登録制）

開催案内：<https://www.jst.go.jp/moonshot/sympo/20260415/index.html>

- ・ **岡田PJ**：「ミュオン核融合技術に関するワークショップ(仮題)」（9月初旬予定）

### ステージゲート(2年目)

核心的課題に絞り込んだ研究を行いproof of principleを示し、その成果のインパクトを公開討論会で評価する競争的ステージゲートを実施し、プロジェクトの絞込を実施する

- ・ **PJ毎に27年8-9月末月頃に開催予定、MS10ホームページで告知予定**

## MS10、PJのワークショップ、研究会を通じて様々な分野からMS10に参画してもらい共働を目指す

※現時点で既に予定されているイベントを記載、他PJも順次開催を予定

### ワークショップ

幅広い分野から参画してもらい、各プロジェクト(PJ)の成果・出口戦略などを議論・共働を図る

※MS10,各PJで順次開催予定、開催案内はMS10ホームページ、学会メルマガなどで告知

- ・ 藤岡PJ：「ムーンショット目標10における研究開発プロジェクトとプラズマ物理：社会実装を見据えた基礎研究の役割」

26年/9月：日本物理学会第81回年次大会@東大

- ・ 森PJ：「青紫色半導体レーザーによる慣性核融合モジュールの構築（仮題）」

26年/4月/20-24日：パシフィコ横浜@光・フォトンクス国際会議 OPIC2026

### 研究会

専門家・他分野から参画してもらい、各プロジェクト(PJ)の研究課題を議論・可能性を議論

※各PJで定期的開催予定、開催案内はMS10ホームページ、各PJホームページなどで告知

- ・ 奥野PJ（年2-3回開催予定）「 $\sigma t$ 研究会」：

革新的加速器技術の一つの出口戦略として、ビーム駆動による先進核融合可能性を基礎から検討

- ・ 小澤PJ（年2-3回開催予定）「核融合の数理科学研究会(仮題)」

核融合の論理構造を数学の観点から再検討し、基本概念そのものに遡及した革命的なモデルを構築

- ・ 田中PM（26年後半）「同位体分離技術に関する研究会(仮題)」

課題推進者，QST関係者，企業関係者等による研究会、開催場所：JST（東京）予定

生成AIを活用しフュージョン分野の公開・非公開データ・多様なデータ  
(数値データ、プログラム、文書)を融合して利活用

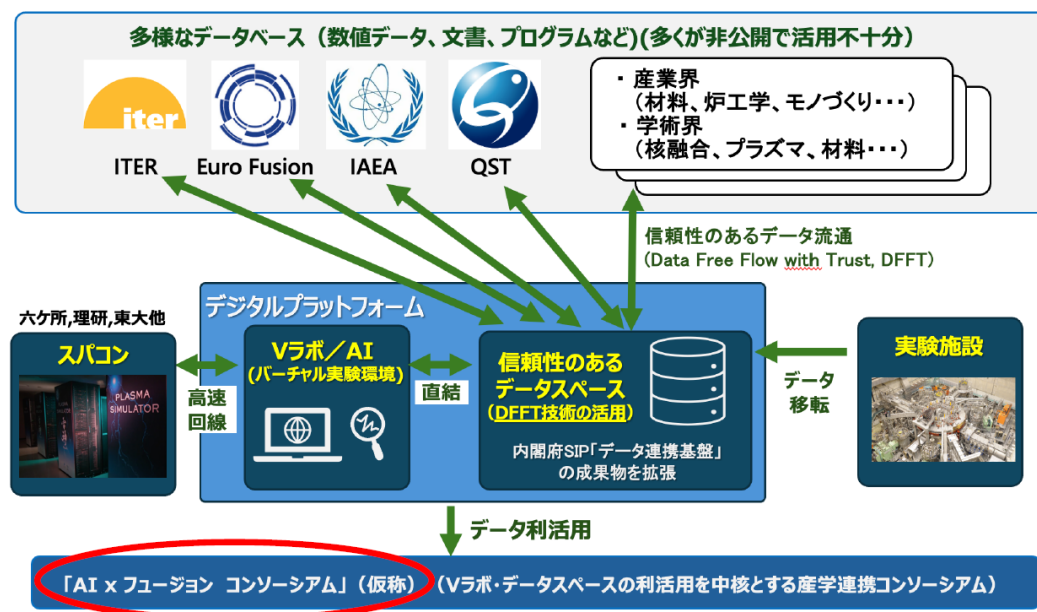
## コンソーシアム

### ・星PJ: 「AI×フュージョンコンソーシアム」

非公開データをイノベーションに有効活用する情報基盤としてDFFT (Data Free Flow with Trust) の技術開発とジェネリックVラボへ実装し、並行してデータ空間運用のコンソーシアムを構築する

→26年9月頃に創設予定

→知財戦略プロデューサー、URAを採用し、専用オフィスを開設、大学・研究機関・企業と連携



**人材育成、産業界と幅広い連携を促進し、次を担う若手の育成、核融合エコシステムを広げる****人材育成****・小澤PJ :**

小澤プロジェクト（数理科学）の作り込みにおいて、数学を共通言語とした**若手研究者（ポスドク）交流**の実施し、数理科学と核融合の研究者の交流を図り、新たな課題を探索する

**研究機関・産業界との連携**

開発された成果「ツール」を研究機関や産業界へ受け渡し、フュージョンエネルギーの技術開発が他の科学技術分野と連携して発展できる**エコシステムを形成**する

- ・ **(奥野PJ)** : ビームライン設計の共働、コンパクト・高効率加速器電源の製作
- ・ **(木須PJ)** : 高温超伝導の安定・量産技術の確立、スタートアップとの協同
- ・ **(齋藤PJ)** : NIFSの研究施設の活用、ダイポール閉じ込め用超伝導コイル製作
- ・ **(田中PJ)** : 革新的な同位体分離技術によるシステム開発
- ・ **(谷川PJ)** : コンパクトブランケットの製作技術
- ・ **(星PJ)** : データスペース構築とコンソーシアム創設
- ・ **(藤岡PJ)** : 超高反射有限帯域ミラーの開発
- ・ **(森PJ)** : 高出力・高繰り返し青紫半導体レーザー技術の開発

以下、補足説明

- **学際化したプロジェクト推進**

多彩なバックグラウンドをもつ優秀な研究者や技術者の核融合分野への新規参入を促し、学際的な研究チームを編成する。

- **柔軟なプロジェクトマネジメント**

各PMには、研究開発プロジェクトを成功に導くために、プロジェクトの進捗などに応じた研究計画の見直しや、課題推進者（PI）の再編成等の積極的なマネジメントを求める。

- **プロジェクト間の連携**

プログラムを構成するプロジェクト間の連携強化に務め、冗長性を排除するとともに、相乗効果を生み出す。若手研究者やポスドクの異分野交流によって、次世代を担う研究者を育成する。

- **変化に対応したプログラムの強化**

フュージョンエネルギーの「メタ研究」を推進し、多面的な活用に必要な研究開発要素の抽出と評価を行う。解決が必要な分野や課題については、追加公募を行うなど、目標達成に向けた取り組みを継続的に行っていく。

- **広報、アウトリーチによる情報発信**

積極的な情報発信やワークショップ等を通して、フュージョンエネルギー研究開発に多様なステークホルダーを巻き込む努力を継続する。